

性別にとられない「第3の制服」 佐野高校・附属中で 生徒主体の制服作り

【佐野】県立佐野高校・附属中では、生徒が主体となり、性別にとられない「第3の制服」作りを進め、12月2日、試作品のお披露目をした。

これまでの制服は、男子が詰め襟、女子はセーラージャケットで、女子のみがスカートまたはスラックスを選択できる（今年4月導入）。新制服のきっかけは、生徒会長の土屋史輝さん（2年）が、制服が「つらい」という声を知り、7月の会長選挙で、「女子はリボン、男子はスラックスといった決まりは、自分らしさを尊重する今の社会にそぐわない」と訴え、新制服の導入を公約に掲げたこと。

青柳育夫校長も、その考えに賛同。制服作りは、夏休み明けから、生徒会役

員を中心に、有志を募り、36人が参加。積極的に意見を出し合い、デザイナーとも話し合いを続けた。

試作品は、濃紺のジャケット。ネクタイを採用し、既存のスカートやスラックスと合わせれば、スーツスタイルで着用できる。

土屋さんは「すべての人が着られるデザインを重視しました。みんなの意見がすぐにまとまり、みんなが同じ思いだったことを実感、思ったよりも早く進み驚いています。デザインでより考えたのは統一感です。色を濃紺にすることで、上下のバランスをとりました。試作品は、素直にかっこいいなと。携わってくださった方々に感謝します。性別だけでなく、多様性が尊重されるようになればいいですね。お披露目も好評でホッとしています」と思いを語った。新制服は、来年度の新入生から選択できるようになる予定だ。

